

じいじへ

じいじは今も、ぼくを見ていてくれますか。ぼくは、
六年生になりました。二年生のころは、やんちゃなぼ
くにつきあってくれてありがとう。遊びたいと言ったら、
ベッドを起こして遊具にしてくれたよね。すごく楽
しかったよ。じいじはぼくが何をして、やさしく笑っ
ていた。ぼくはそんなじいじが大女子きだったよ。
他にも、二年生のころは大きくて着水なかつたじいじ
の服が着れるようになったよ。その服を着ると、じいじ
の顔がうかんできて不思議と安心するんだ。ぼく
に、やさしさと笑顔を教えてくれてありがとう。じ
いじのように人にやさしく笑顔にさせてあげられる人
になりたいです。じいじくらい大きくなるから、これ
からもぼくを見ていてね。そして、ありがとう。

山根圭悟より

